

火山対策(浅間山)

小～中・大規模の噴火

火山について

火砕流

火口から噴出した高温の岩塊、火山灰、軽石などが高温のガスと融合し、それが一体となって地表を逆走する現象。

融雪型火山泥流

雪が積もっている時期に高温の火砕流が発生すると雪が解け、土砂、火山灰等と一緒に、斜面を高速で流れ下る現象。

その他の火山現象

地震・空振・噴石・火山灰・火山ガス・溶岩流・土石流など

浅間山では、極小規模の噴火、小～中規模の噴火、大規模の噴火の発生が想定されています。極小規模や小～中規模の噴火が発生すると、そのまま活動が沈静化することが多いですが、場合によっては大規模な噴火に発展することもあります。火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と住民などの「とるべき防災対応」を5段階に区分しています。町からの情報にしたがって落ち着いて行動しましょう。



レベル(キーワード)	対象範囲	火山活動の状況	住民等の行動	名称
5 (避難)	居住地域及びそれより火口側	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要	噴火警報(居住地域)
4 (高齢者等避難)	居住地域及びそれより火口側	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等避難、要配慮者の避難等が必要	噴火警報(居住地域)
3 (入山規制)	火口から居住地域近くまで	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常的生活状況に応じて要配慮者の避難準備	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報
2 (火口周辺規制)	火口周辺	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常的生活	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報
1 (活火山であることに留意)	火口周辺	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	通常的生活	噴火予報

噴火レベル4～5(噴火警報)

噴火警戒レベル4～5では、居住地域まで被害が及ぶ恐れがあるため、避難準備や避難をする必要があります。レベル4～5が発表された場合は、地元防災機関(町・警察・消防)の指示に従ってください。

噴火レベル2～3(火口周辺警報)

噴火警戒レベル2～3では登山道の規制地点が変わります。規制範囲内では、噴火に伴い直接人命に危険が及ぶ火山現象が発生するおそれがあります。一時的に道路を規制することがあります。

日ごろの火山噴火対策

火山・防災情報に注意する

- 「火山に関する情報」等を日ごろからチェックしましょう。
- 防災行政無線やメール配信サービスなどの噴火に関する情報に注意しましょう。
- 迷信やSNSのデマに惑わされないようにしましょう。

噴火が起きたときのことを考える

- 浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのか、知っておきましょう。
- 家族みんなで避難する場所を確認しておきましょう。

防災用品を準備する

- 小さな噴石にはヘルメット、降灰があるときはマスクやゴーグルが効果的です。

浅間山の噴煙を見る習慣をつける

- 「噴煙に色はついているか、量は増えているか」「火山ガス特有のにおい(卵が腐ったようなにおい)はしないか」などが目安となります。

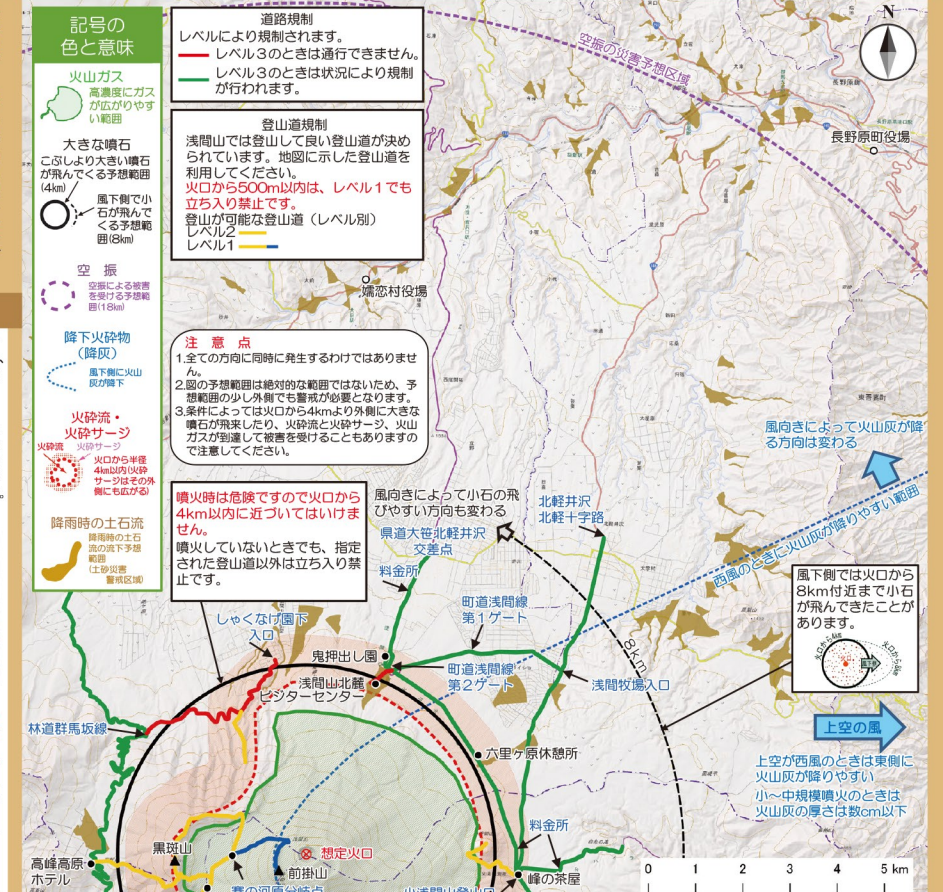
小～中規模の噴火

このハザードマップは火口周辺警報(噴火警戒レベル2～3)に相当します。

これまでの小～中規模の噴火では、降灰や噴石、空振、ときには小規模な火砕流などの現象が発生しました。小～中規模の噴火は、今後も起こりやすいと予想されます。噴火した場合、火口から4km以内では、大きな噴石が飛んでくる可能性があります。噴火時は危険ですので火口から4km以内に近づいてはいけません。噴火していないときでも、指定された登山道以外は立ち入り禁止です。

融雪型火山泥流

- ①噴火 高温の岩塊や軽石が噴出
 - ②火砕流 数百度の高温、時速100km近い速度で流走
 - ③融雪型火山泥流 雪がとけて土砂等と一緒に時速60km近い速度で流下
- ◆積雪期に火砕流が発生すると、その熱によって火口周辺の雪が解け、渓流沿いの土砂や樹木と一緒に泥水となって斜面を高速で流れ下ります。
- ◆速さは時速約60kmにも達すると言われ、15分程で別荘地や住宅地に到達する可能性があります。破壊力が大きく、広範囲に氾濫しやすいため大きな被害が発生します。



大規模の噴火

このハザードマップは噴火警報(噴火警戒レベル4・5)※積雪期に相当します。

これまで大規模噴火では大量の軽石や火山灰の降下、吾妻火砕流、鬼押し出し溶岩の流下が発生し、鎌原火砕流・岩屑雪崩では大きな被害を受けました。火山灰や軽石が風下側の地上に積もり、火山灰を吸い込んだ精密機械が故障したり、木造家屋は屋根に積もった火山灰・軽石の重さで倒壊したり、高熱によって火事になるおそれがあります。広域避難の必要がありますので、火砕流や火砕サージの影響を受ける可能性がある周囲では、事前に安全な場所へ避難する必要があります。

